

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>	フランス語II A F2104 Intermediate French A				担当者所属 職名・氏名	非常勤講師 坂井 礼文			
群	外国語科目群			分野(分類)				使用言語	日本語
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月2		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

### [授業の概要・目的]

#### フランス文化

この授業では、教科書『フランス語圏の社会と文化』(2016年)を用いて、フランス語で書かれた文章を講読する。フランス語圏と言えば、フランス本国のイメージが強いが、隣国ベルギーや、北米のカナダのケベック州やアメリカのルイジアナ州、日本から比較的近いフランスの海外領土ニューカレドニアに加え、アフリカ大陸にある多くの国々も含まれることを忘却するべきではない。これらの地域の文化に関して書かれた文章を読み解くことで、日本ではあまり知られていない、世界規模にわたるフランス語圏の社会と文化の全容に関する理解を深める。

フランス本土に関しては、この教材では触れられていないため、時間があれば、本土で撮影された動画をDVDで鑑賞することにより、本国の文化も紹介したい。

また、教科書の各課の最後に付いている文法の練習問題を解くことで、文法に関する知識も増やしていく。

### [到達目標]

- ・フランス語で文章を読む力を向上させる
- ・初級の授業で学んだフランス語の文法知識を深める
- ・音声を繰り返し聞くことで、フランス語の発音を聞き取り、自分でも正しく発音できるようになる

### [授業計画と内容]

以下のように、基本的に1回の授業で、教科書の1章を終えることを目安とするが、受講者のレベルに応じて、講義のスピードを速めたり、遅くしたりすることもある。必要であれば、補助教材を用いることも想定している。

- 第1回 第1章「フランス語とヨーロッパのフランス語圏」
- 第2回 第2章「フランスの植民地と海外県および海外準県」
- 第3回 第3章「ケベックの歴史と独自性」
- 第4回 第4章「アメリカのフランコフォンとフランス語保護運動」
- 第5回 第5章「フランス領カリブ海地域とハイチの独立」
- 第6回 第6章「フランス領インドシナとホーおじさん」
- 第7回 第7章「フランス領アフリカとアラブの春」
- 第8回 第8章「ケベックの公用語はフランス語」
- 第9回 第9章「フランコフォニーとフランコフォニー国際機関」
- 第10回 第10章「フランスのアラブ系2世とブル文化」
- 第11回 第11章「『タンタンの冒険』をめぐる」
- 第12回 第12章「フランス映画が描くフランス領インドシナの終焉」
- 第13回 第13章「ケベックのサーカス文化」

----- フランス語II A F2104(2)へ続く -----

## フランス語II A F2104(2)

第14回 第15章「間文化主義とケベックの文化政策」  
第15回 フィードバック（フィードバック方法は別途指示する）

授業日は全部で14回しかないため、あえて第14章「カリブ系アイデンティティの変遷 ネグリチユードからクレオール性へ」は含めなかったが、もし余裕があればこの章も取り扱いたいと思う。このように、進度と受講者の関心に応じて、臨機応変に取り扱う章を変更することもある。

### 【履修要件】

「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。

### 【成績評価の方法・観点】

平常点は、出席状況・授業態度・予習の有無に基づいて、20%を目安として付ける。加えて、期末テストの結果を80%として計算し、成績を算出する。

### 【教科書】

山出裕子『フランス語圏の社会と文化』（駿河台出版社）

### 【授業外学修（予習・復習）等】

授業の前に各課の予習をしておくこと。その際に、文中に出てくる動詞の原形と時制も確認しておく。自分が担当していない箇所でも、あらかじめ読んでおく。

可能であれば、音声CDを購入、あるいは音声をダウンロードして、予習と復習の際にシャドウイングを行なう。

### 【その他（オフィスアワー等）】